

## 令和7年度 第4回買物公園エリアプラットフォーム会議 会議要旨

### 【開催日時】

令和8年3月2日（月） 18：30～20：10

### 【開催場所】

旭川市庁舎7階大会議室A

### 【会員参加者（敬称略）】

赤松 昌輝、荒木 孝文、有馬 準、植木 大輔、柏木 公司、佐藤 祐哉、四戸 秀和、鈴木 伸治（Web）、知本 有里、長尾 英次、蜂須賀 咲来（Web）、三浦 詩乃（Web）、柳 絵里、山田 直人、旭川市

### 【会議資料】

- ・ 第4回 エリアプラットフォーム会議
- ・ 買物公園エリアロードマップ（案）

### 【会議内容】

- 1 開会
- 2 議事

※ 資料「第4回 エリアプラットフォーム会議」に基づき進行、説明。

#### ① 社会実験の効果検証報告

- 合同会社流動商店（社会実験企画・実装化検討業務の受託業者）より、社会実験の効果検証結果の要点を報告した。

#### ② ロードマップ案について

- 事務局より、ロードマップの概要を説明し、続いて合同会社流動商店より、資料「買物公園エリアロードマップ（案）」に基づき、ロードマップ案の内容について説明した。
- ロードマップ案について、3グループに分かれ、「目指す空間のアイデア」「マイルストーンとアクション」に対する意見を書き出し、各グループで共有した。

※ 主な意見は、別紙「ロードマップ（案）に関するグループワークでの主な意見」のとおり。

- ロードマップ案に対し、Web参加の鈴木氏、三浦氏より、次のとおり意見があった。
  - ・ 全体としてよくまとまっているが、かなり高度な取組をやっていくことになるので、実際には組織を立ち上げながら動かなければならない場面も出てくると思う。
  - ・ エリプラや中間支援組織だけでなく、もっと気軽に話し合えるような体制が必要であり、誰がどのように進めていくかが重要になってくると思う。
  - ・ 空間を変えるためのアイデアはしっかりまとめられているが、現状から少しずつ変えていくアイデアも必要で、例えば既存のベンチやテーブルの活用など、実験をしながら新しいゴールを目指していくようなアジャイルな発想があってもよいと思う。
  - ・ 新しく建物を建て替える話が進んでいく中で、これまでの社会実験で得られた知見をどう反映させるかが大事である。行政が担うべき役割は大きいですが、地域と対話する場を設定することも重要で、結果だけが地域に示される形にならないよう上手く対処してほしい。
  - ・ 組織を自走させる上で、財源をどう確保していくのかを考えていく必要があり、例えばバスキングだけでなく、キオスクのようなものを設置して、その賃料収入をまちづくりに生かしていくような発想があってもよいと思う。

### ③ 次年度のエリプラ活動等について

- 事務局より、次年度のエリプラの取組の概要について説明した。
- 四戸幹事より、次年度のエリプラ事業計画案（幹事会による案）について説明し、文化芸術振興関連事業（市民芸術マルシェ）については、文化振興課より補足説明を行った。
- 事務局より、エリプラの規約改正の主な内容について説明した。
- 次年度に買物公園エリアで実施予定の事業について、各事業の実施主体となるエリプラ会員（欠席の場合は事務局）より説明を行った。
- 本日の議事全般について、Web 参加の鈴木氏、三浦氏、蜂須賀氏より、次のとおり意見があった。
  - ・ 情報共有することはエリプラとして良いことだと思う。社会実験のことだけでなく、日常的なイベントの情報共有を進め、積極的に話し合う機会を作ることが大事だと思う。
  - ・ 買物公園の道路部分をどう使っていくかという話を中心となっているが、沿道店舗とのつながりをどう作っていくかという点についての取組が足りていないように感じる。連携については、色々な立場の方が色々な形でできる部分があると思うので、積極的に進めてほしい。
  - ・ 活動を楽しいと感じられなければ、色々な人を巻き込むことができないと思う。もっと買物公園のファンを増やして、積極的に関わってくれる人を増やしていくことも大事なので、コミュニティづくりをしっかりと進めるべきだと思う。
  - ・ 初年度の社会実験のときに出席された方との関係が途切れているという話があるので、意見交換できるような仕組みが必要である。エリプラ自体の輪を広げていくことも大事なので、これまで関わってくれた方々に声掛けしていくとよいと思う。
  - ・ 社会実験が終わって、エリプラがなかったときの状態に戻ってしまわないか不安に感じている。エリプラがあるからこそ、元の状態に戻っても連携やつなぎ合わせができるような体制が取れるとよいと思う。
  - ・ ロードマップや中間支援組織を作ることは大きな話なので、その中でエリプラメンバーや関わっている方々が、どのポジションで何をしていくのか、それぞれ具体的に思い描けなければ、ビジョンがあっても動かない状態になってしまう。ロードマップに書かれていることよりもっと小さい、自分ができるアクションをそれぞれ考えることが大事だと思う。
- 最後に、長尾代表幹事より、今年度最後の会議を終えての感想及び挨拶があった。

### 3 閉会

以上

## ロードマップ（案）に関するグループワークでの主な意見

### ○空間の設置物・設備について

- 可動式、組み立て式ステージ
- 「手の噴水」「開拓のイメージ」のリノベーション
- 遊具、トランポリン
- オセロや〇×ゲームなど、交流が生まれる遊び道具
- 本物の芝生
- タープ等を設置するためのポールや、ロープを引っ掛けるフック
- Wi-Fiのアクセスポイント
- 花時計
- 面白い形のイス
- ヨギボー+マンガ
- 築山的な遊び場
- 落書板、メッセージボード

### ○広場の活用・運営について

- 積雪時でも人が滞在・利活用できるような空間
- 観光客の集合解散スポットの近くに観光客向けの案内を設ける
- ほこみち制度の活用
- 滞在機能と広場機能のバランス
- 出展の場所をある程度まとめる（出展者同士の交流も生まれるのでは）
- 沿道店舗との利用のつながりを意識する